

2025年3月期 決算説明会

2025年5月23日
(東証プライム市場 4047)



関東電化工業株式会社
KANTO DENKA KOGYO

1. 2025年3月期 決算概要

2. 業績見通し・今後の動向

3. 中期経営計画の進捗

4. 補足資料

損益計算書

- 売上高は半導体メーカーの稼働率向上による特殊ガスの増収があるものの、電池材料はEV市場の成長鈍化による需要減や技術支援料の年度差異により、▲24億円の減収。
- 営業利益は売上高の減収があるものの、特殊ガスの販売数量の増加や、原燃料価格の改善、棚卸資産評価損の減少により、+62億円の増益。
- 経常利益は為替差益の減少があるものの、営業利益の増益や受取配当金の増加により、+58億円の増益。
- 純利益は経常利益の増益に加え、昨年度計上した減損損失がなくなることや、政策保有株式の売却益の増加により、+78億円の増益。

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	増減率(%)
売上高	647	623	△ 24	△ 3.7
営業利益	△ 19	42	62	—
経常利益	△ 13	45	58	—
税金等調整前当期純利益	△ 53	50	103	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 46	32	78	—
1株当たり当期純利益 (円)	△ 80.25	56.53	136.78	

貸借対照表

(億円)

	2024年3月末	2025年3月末	増減	増減率(%)
資産	1,253	1,236	△ 16	△ 1.3
現金及び預金	254	202	△ 51	△ 20.1
営業債権	161	154	△ 6	△ 3.9
棚卸資産	174	172	△ 1	△ 0.7
固定資産 (有形+無形)	497	558	60	12.1
負債	597	559	△ 37	△ 6.2
有利子負債	416	378	△ 37	△ 9.1
営業債務	83	75	△ 7	△ 8.6
未払法人税等	2	7	4	171.8
純資産	655	676	20	3.1
自己資本比率(%)	51.1	53.4	2.3	

基礎化学品事業部門

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減
売上高	88	79	△ 8
営業利益	△ 1	△ 5	△ 4



【売上高】

有機製品の販売数量の増加はあるが、海外安値品流入の影響による販売価格の低下により減収

- ・か性ソーダ …… 一部品目の製造中止に伴う販売数量の減少と販売価格の低下により減収
- ・塩酸 …… 価格修正効果により増収
- ・トリクロールエチレン …… 販売価格の低下はあるが、販売数量の増加により増収
- ・パークロールエチレン …… 販売価格の低下はあるが、販売数量の増加により増収

【営業利益】

売上高の減収により減益

精密化学品事業部門

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減
売上高	512	494	△ 17
営業利益	△ 28	39	68

(億円)



【売上高】

特殊ガスは増収だが、電池材料の販売数量の減少と販売価格の低下および技術支援料の年度差異により減収

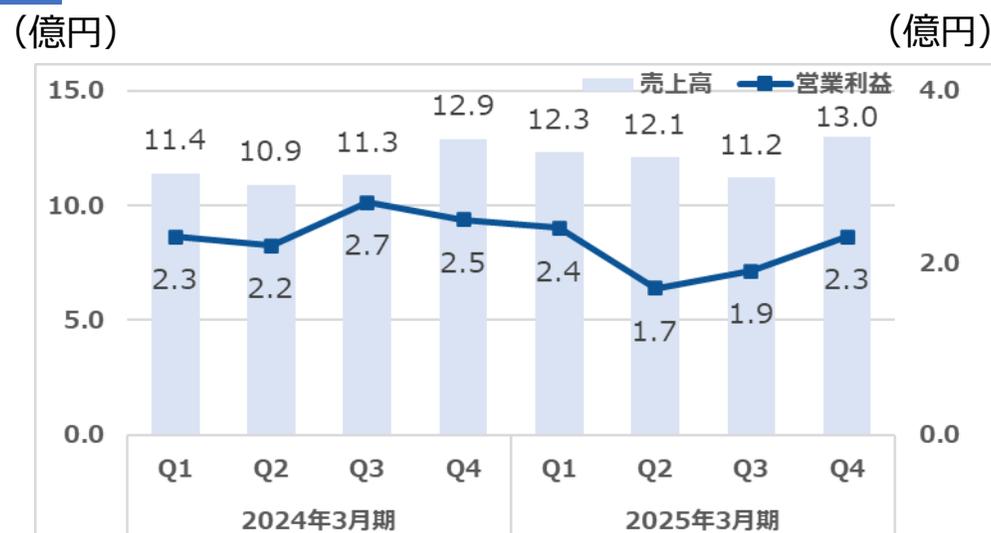
- ・三フッ化窒素 …… 販売数量の増加により増収
- ・六フッ化タングステン …… 販売数量の増加により増収
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン …… 販売数量の増加により増収
- ・六フッ化リン酸リチウム …… 販売数量の減少と販売価格の低下により減収
- ・技術支援料 …… ライセンス契約による対価の年度差異により減収

【営業利益】

売上高の減収影響があるが、特殊ガスの販売数量の増加や、電池材料の原材料価格の改善、棚卸資産評価損の減少により増益

鉄系・商事・設備事業部門（連結調整を含む）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減
売上高	46	48	1
営業利益	9	8	△ 1



【売上高】

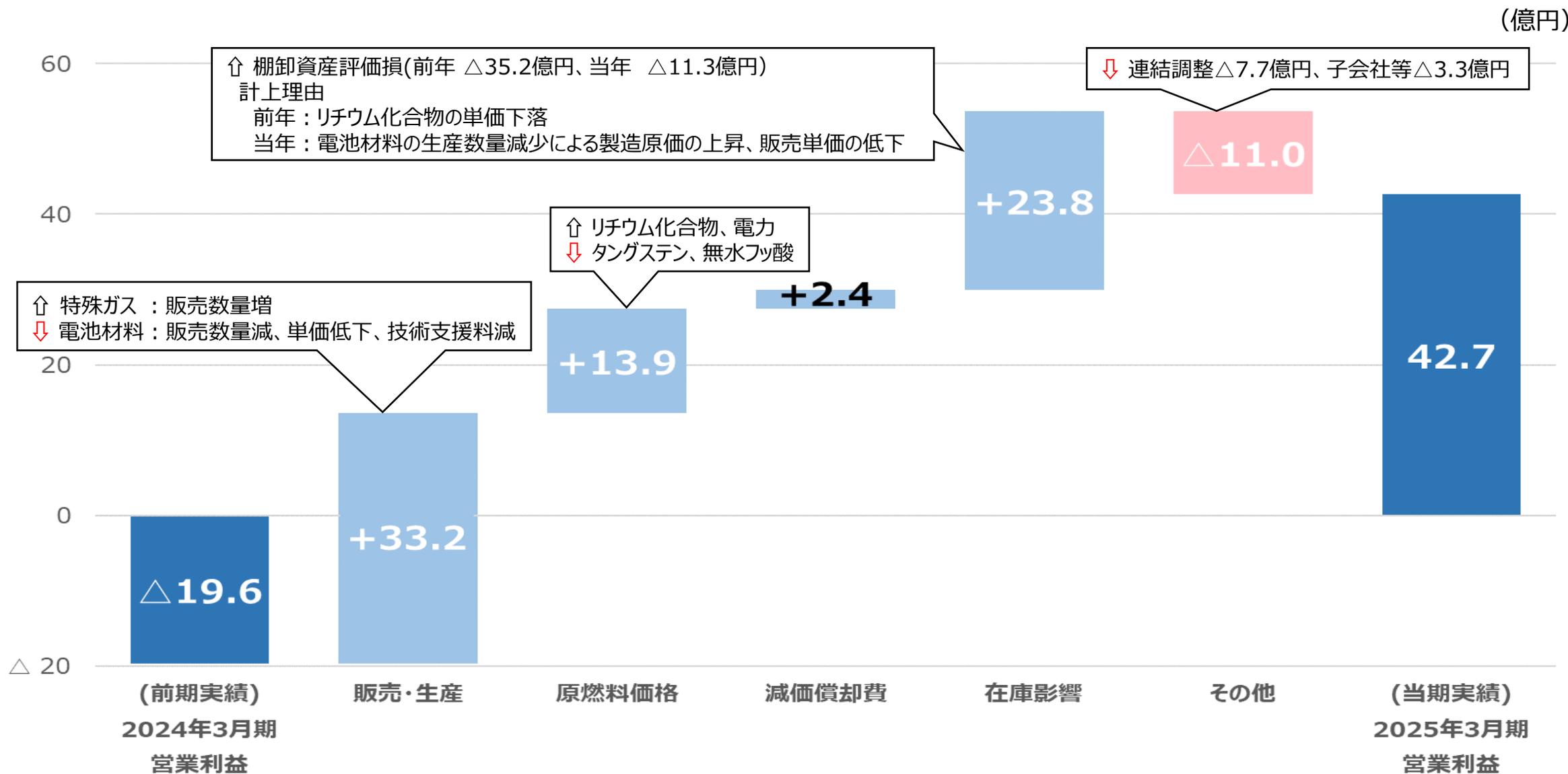
設備事業、商事事業は減収、鉄系事業は増収

- ・鉄系事業 … キャリヤーの販売数量の増加により増収
- ・商事事業 … 工業薬品の販売数量減少により減収
- ・設備事業 … 請負工事の減少により減収

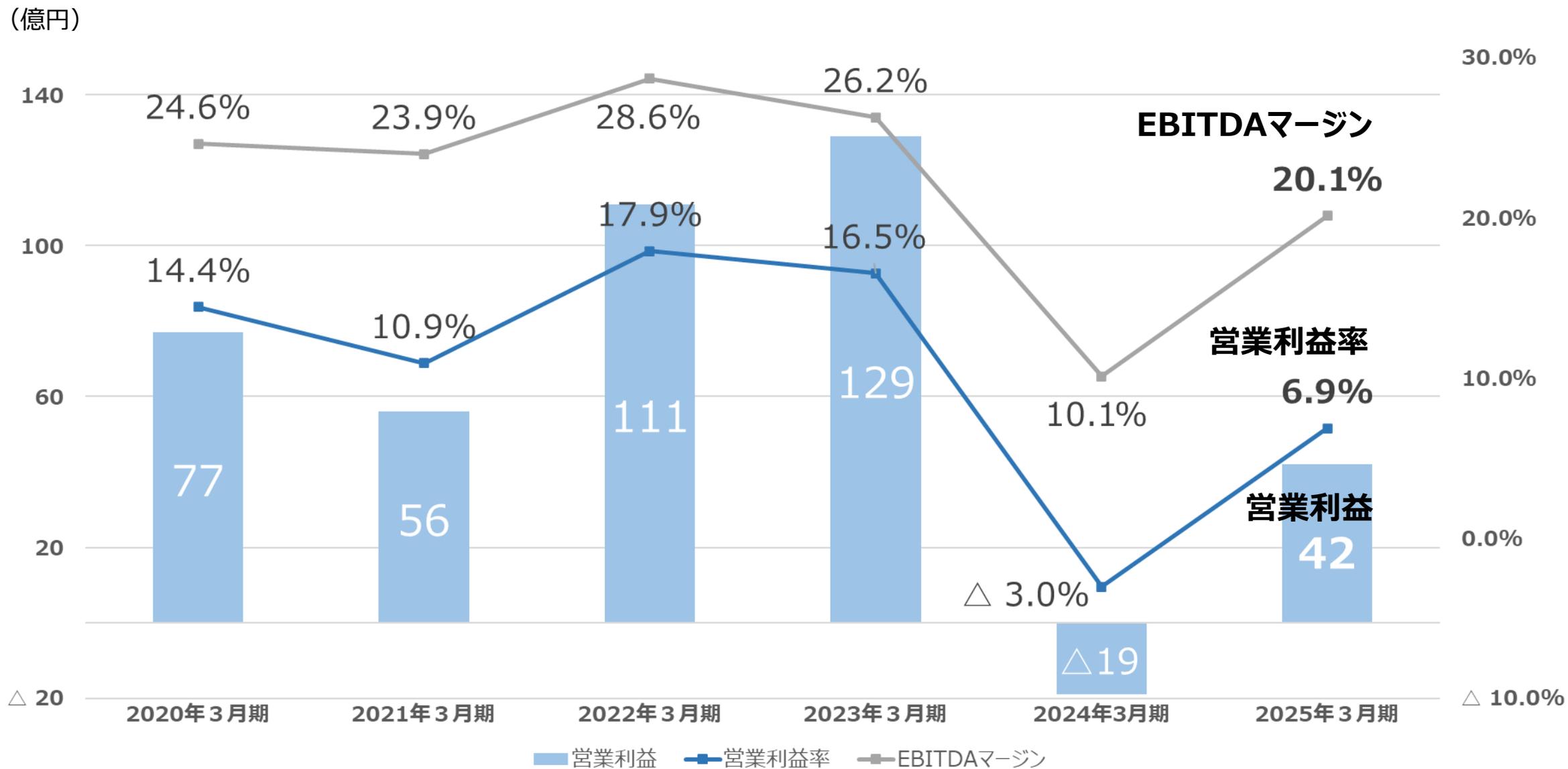
【営業利益】

鉄系事業の増収はあったが、商事事業、設備事業の減収の影響により減益

営業利益差異分析（前期実績 対 当期実績）

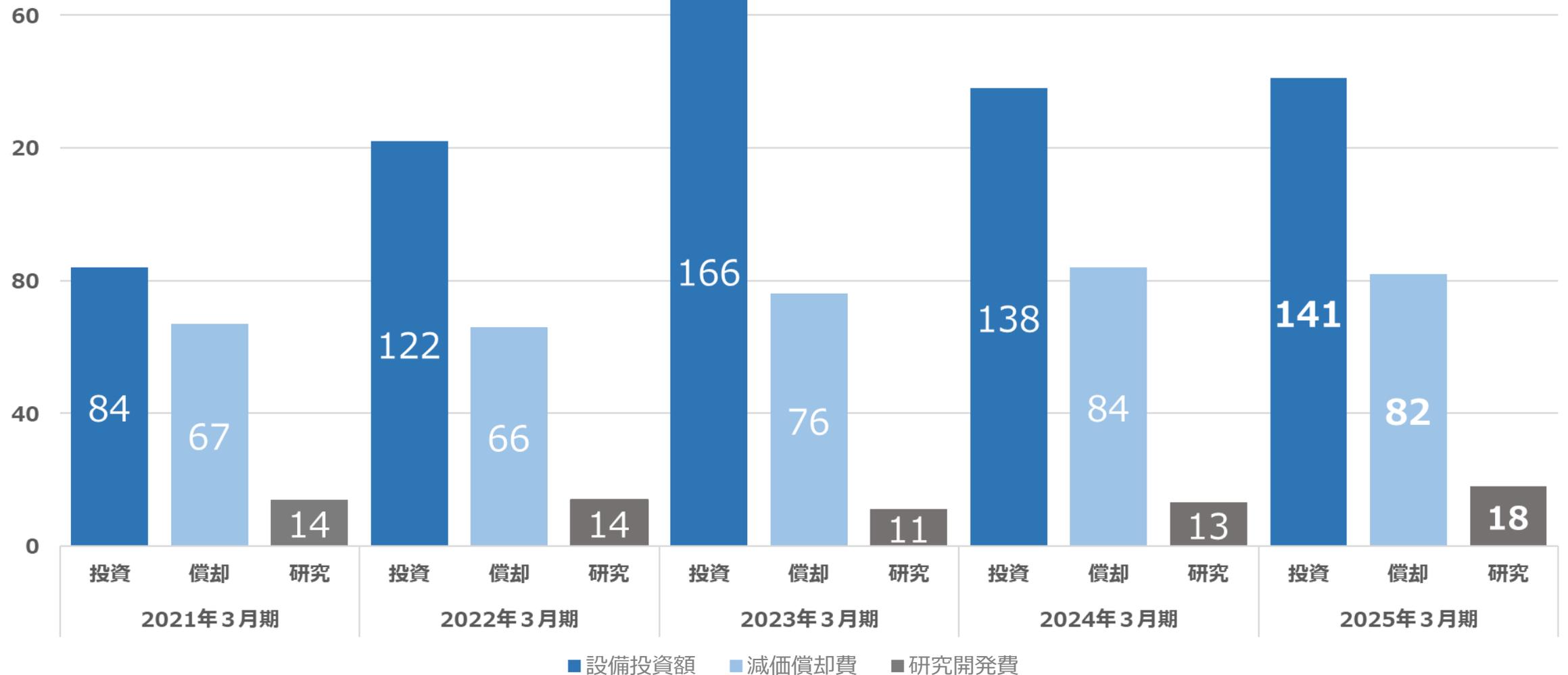


営業利益・営業利益率の推移



設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移

(億円)



関東電化グループ (連結子会社)



	資本金	出資 比率(%)	2025年3月期 売上高 (億円)	対前年 同期比 (億円)	主要な事業内容
関電興産	10百万円	100.0	72	△11	化学工業薬品の販売および 容器整備、保険代理店
上備製作所	120百万円	49.4	47	△12	化学工業用設備の製作・加工・修理
関東電化ファインテック	27百万円	100.0	5	△0	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA	3億ウォン	100.0	150	3	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限公司	7百万NT\$	100.0	75	12	フッ素系製品の販売
関東電化ファインテック(株)韓国	420億ウォン	100.0	37	6	フッ素系製品の製造・販売
宣城科地克科技有限公司	50百万\$	98.3	0	0	フッ素系製品の製造・販売
		合計	389	△0	

1. 2025年3月期 決算概要

2. 業績見通し・今後の動向

3. 中期経営計画の進捗

4. 補足資料

業績予想

- 売上高は技術支援料の次年度以降への後ろ倒しを見込むが、基礎化学品の価格改定や、KSGシリーズを始めとする特殊ガスの販売数量の増加により、+56億円の増収見込み。
- 営業利益は売上高の増収があるが、KSG-14やC₄F₆の設備稼働による償却費の増加や人件費、修繕費等の固定費の増加により、+7億円の増益見込み。
- 米国の関税政策の直接的な影響は軽微の見込み。

(億円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減	増減率(%)
売上高	623	680	56	9.1
営業利益	42	50	7	17.0
経常利益	45	50	4	10.9
親会社株主に帰属する当期純利益	32	33	0	1.6
1株当たり当期純利益 (円)	56.53	57.43	0.90	
為替レート (円/\$)	153	150		

業績予想 (セグメント別)

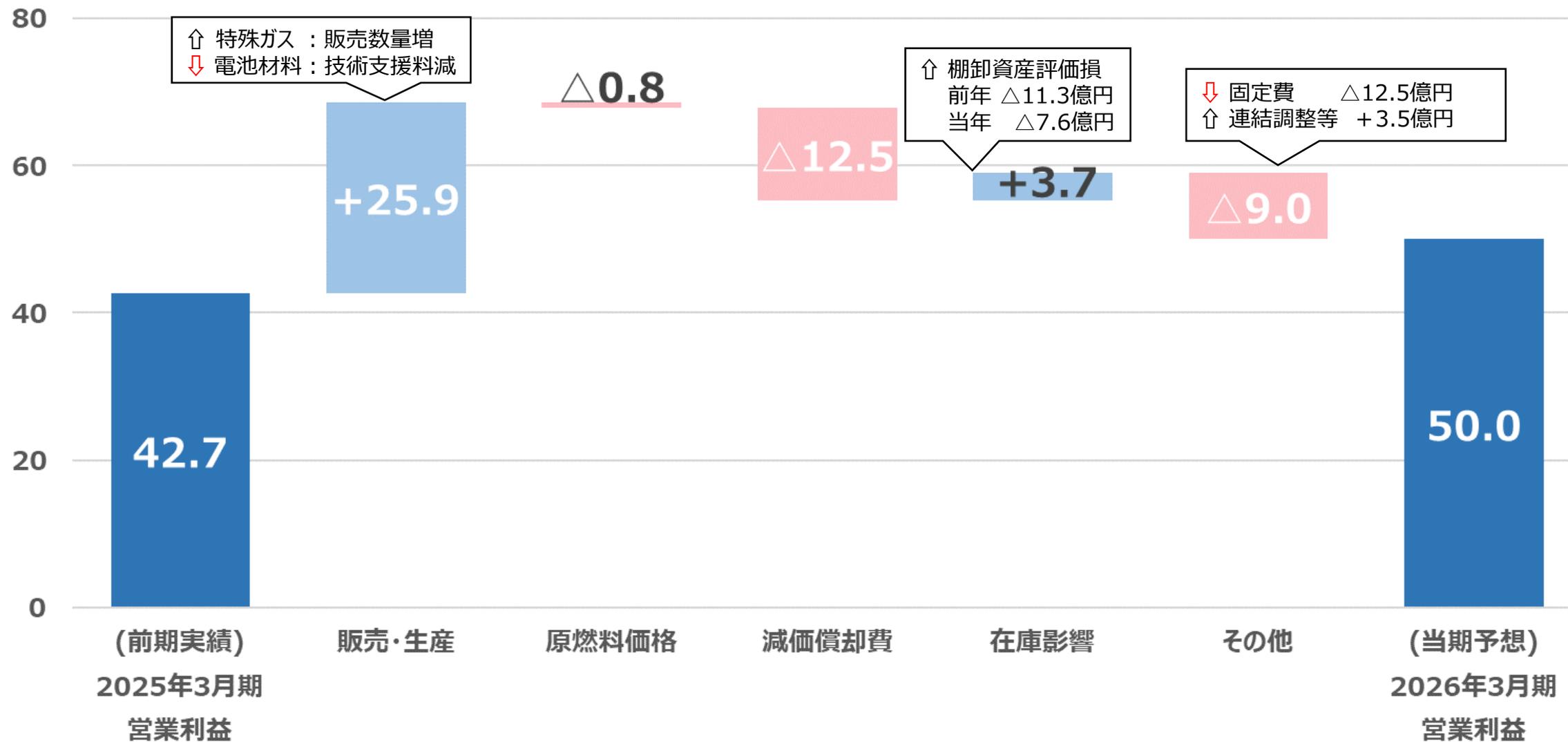
(億円)

	売上高			営業利益		
	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減
基礎	79	85	5	△ 5	2	7
精密	494	546	51	39	43	3
その他*	48	49	0	8	5	△ 3
合計	623	680	56	42	50	7
(参考)単体特殊ガス	410	461	51	48	49	0
(参考)棚卸資産評価損	-	-	-	△ 11	△ 7	3
設備投資額	141	119	△ 21			
減価償却費	82	95	12			
研究開発費	18	24	6			

※ その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

営業利益差異分析（前期実績 対 予想）

(億円)

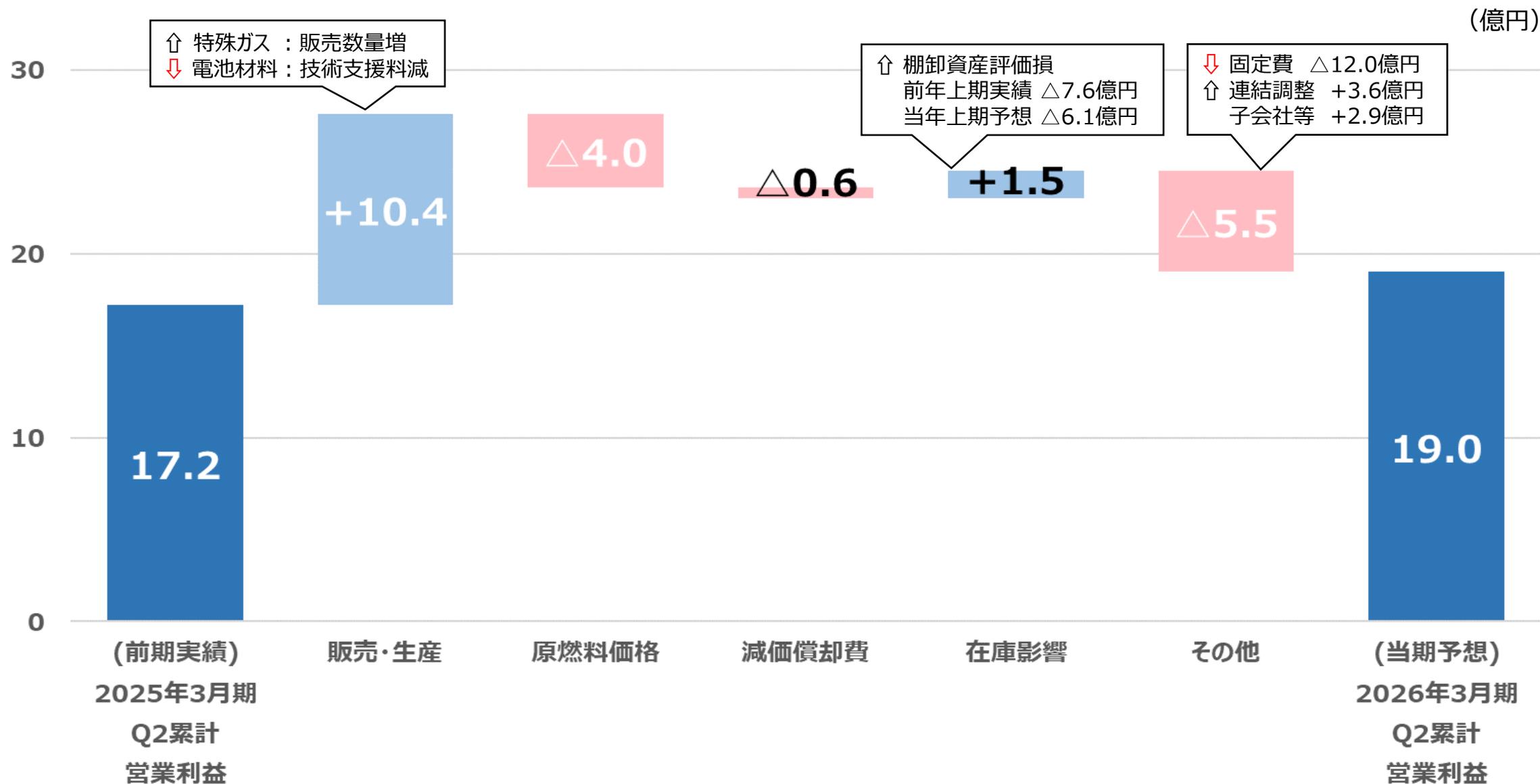


上期実績と予想の比較 (セグメント別)

(億円)

	売上高			営業利益		
	2025年3月期 上期実績	2026年3月期 上期予想	増減	2025年3月期 上期実績	2026年3月期 上期予想	増減
基礎	39	39	△ 0	△ 5	0	5
精密	248	262	13	18	16	△ 2
その他*	24	26	1	4	3	△ 1
合計	312	327	14	17	19	1
(参考)単体特殊ガス	204	223	18	23	21	△ 2
(参考)棚卸資産評価損	-	-	-	△ 7	△ 6	1
設備投資額	63	49	△ 14	※ その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。		
減価償却費	40	41	0			
研究開発費	8	11	2			

営業利益差異分析（前年上期実績 対 予想）

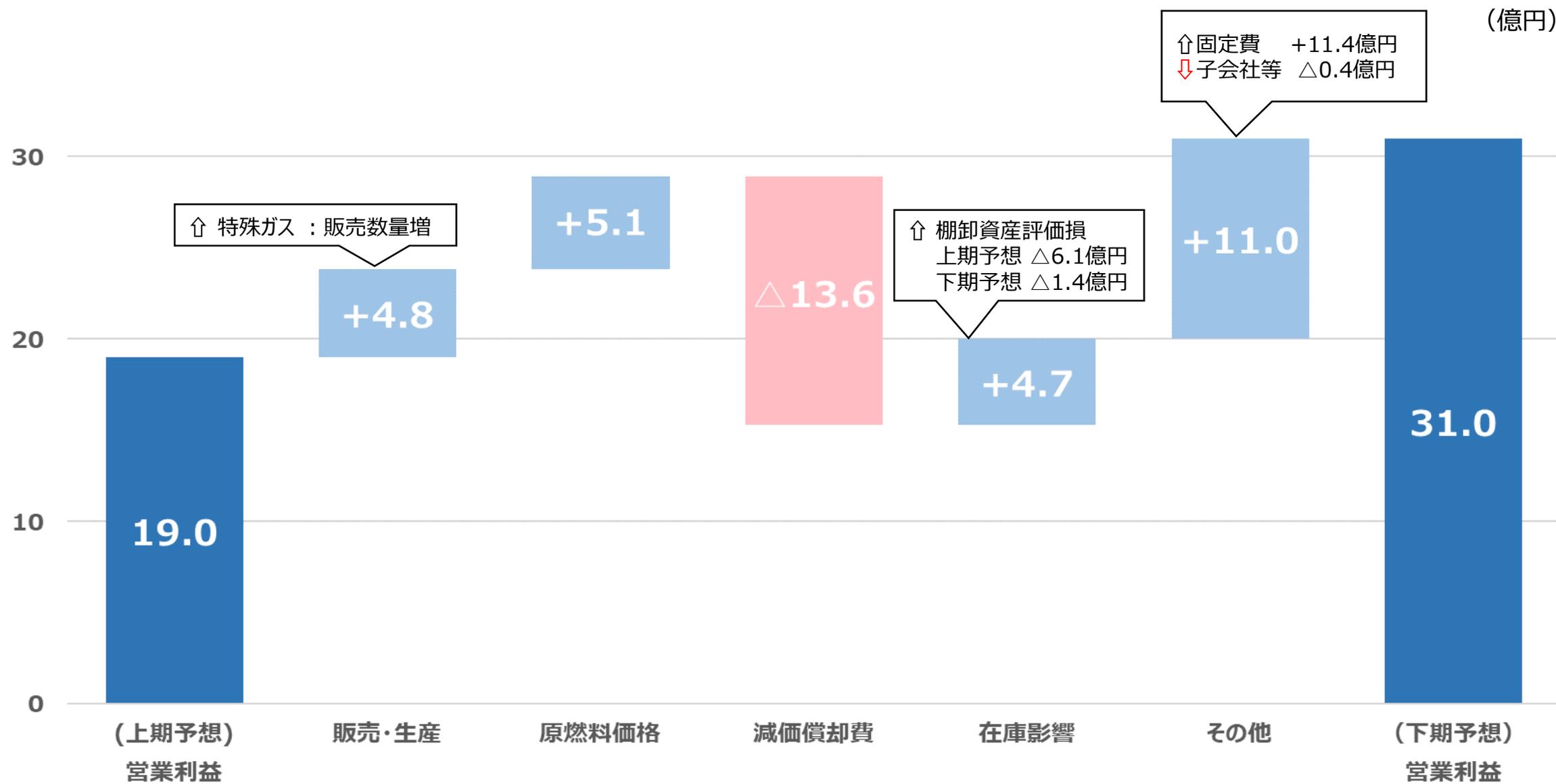


業績予想 上下比較 (セグメント別)

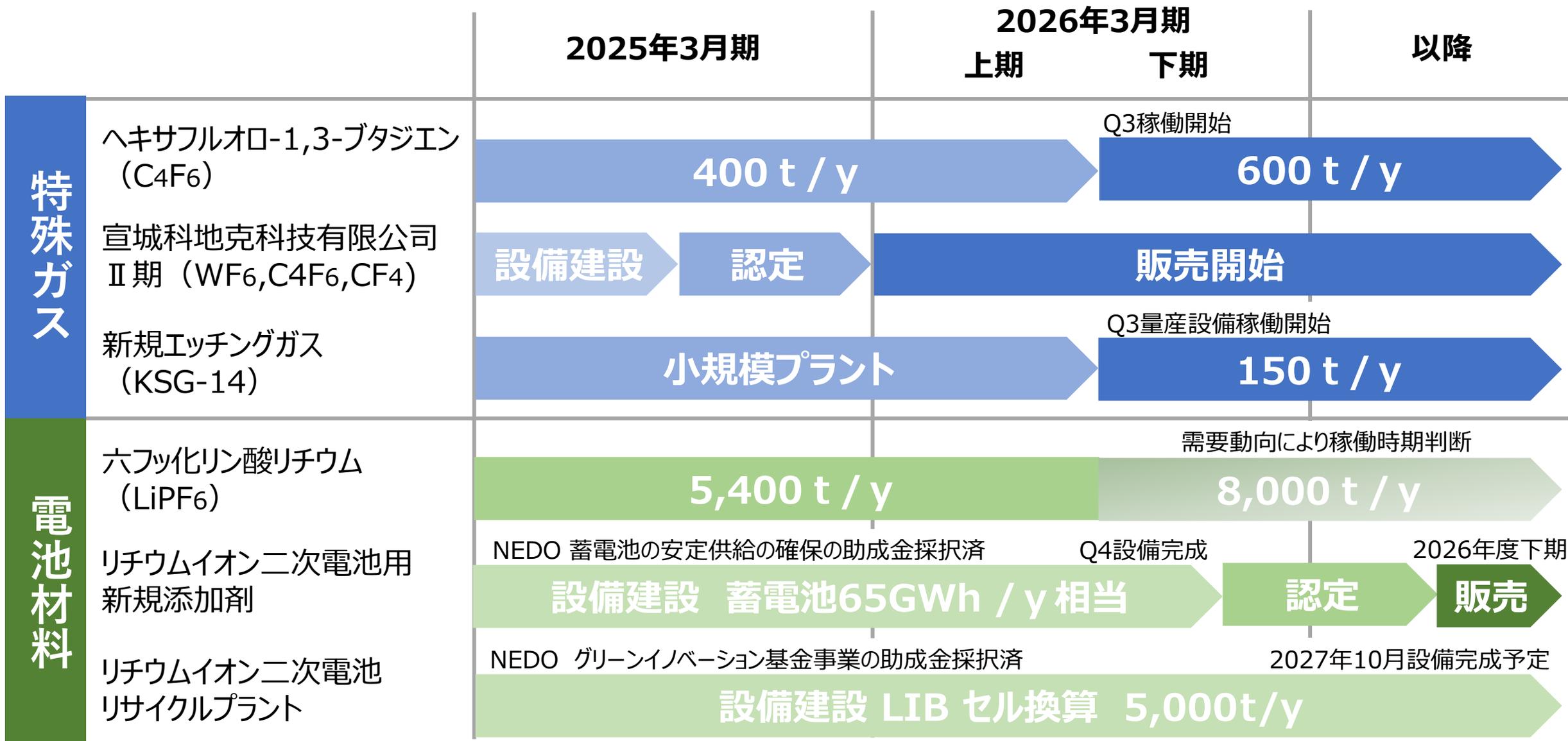
(億円)

	売上高			営業利益		
	2026年3月期 上期予想	2026年3月期 下期予想	増減	2026年3月期 上期予想	2026年3月期 下期予想	増減
基礎	39	46	7	0	2	2
精密	262	284	22	16	27	11
その他*	26	23	△ 3	3	2	△ 1
合計	327	353	26	19	31	12
(参考)単体特殊ガス	223	238	15	21	27	6
(参考)棚卸資産評価損	-	-	-	△6	△1	4
設備投資額	49	70	20	※ その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。		
減価償却費	41	54	13			
研究開発費	11	12	0			

営業利益差異分析（上期予想 対 下期予想）



トピックス（主な設備投資の状況）



1. 2025年3月期 決算概要

2. 業績見通し・今後の動向

3. 中期経営計画の進捗

4. 補足資料

現状認識（中計進捗）

- 2024年度は売上高・営業利益ともに計画未達
- 特殊ガスは概ね計画通りに進捗
- 電池材料は計画から大幅に乖離
 - ▶ 市況回復の遅れと米国IRA法の施行延期が主たる原因であり、2025年度も好転は見込めない
 - ▶ 最終の2026年度は策定時の前提条件に徐々に近づくと想定するが不透明感は強い

(億円)

	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期
	計画*	実績	計画*	実績	計画*	見通し	計画*
売上高	638	647	780	623	930	680	1,000
営業利益	△20	△19	70	42	80	50	150
ROE	-	△7.0%	-	5.0%	-	-	12.0%以上
ROIC	-	△1.3%	-	2.8%	-	-	8.0%以上

* 中期経営計画(2023年11月22日公表)における計画

セグメント別分析（事業ROIC）

ROIC	2024年3月期	2025年3月期	2027年3月期
	実績	実績	目標
精密化学品	△2.6%	3.2%	10%以上
（特殊ガス）	（2.0%）	（4.1%）	（10%以上）
（電池材料）	（△33.1%）	（△12.3%）	（ 0%以上）
基礎化学品	△1.3%	△5.4%	4～6%
鉄系	4.7%	8.1%	6～8%
全社	△1.8%	3.8%	8%以上

<2025年3月期 各事業の概況>

特殊ガス	<ul style="list-style-type: none"> □ C₄F₆やKSGシリーズ、宣城工場への投資により固定資産は増加したものの、売上高増加により改善
電池材料	<ul style="list-style-type: none"> □ 2024年3月末の固定資産減損および棚卸資産評価損の計上といった改善要因以上に売上が減少し、投下資本回転率が悪化
基礎化学品	<ul style="list-style-type: none"> □ 棚卸資産圧縮も、売上減により悪化
鉄系	<ul style="list-style-type: none"> □ 他セグメントと比較して安定したROICを確保

精密化学品事業を中心とした事業の拡大

特殊ガス

- 宣城科地克Ⅱ期工事（WF₆、CF₄、C₄F₆）の試生産を2024年10月に開始
本格稼働に向け活動中
- 中国協力企業と連携し、中国市場での販売拡大を目指す
- C₄F₆の増強工事を2025年度中に完了させ、シェア拡大を狙う
- KSGシリーズの拡販による利益率向上と、新グレード開発に注力する
- 渋川工場のキャリアー製造設備跡地を特殊ガスに転用すべく準備中
- 関東電化ファインプロダクツ韓国(株)において、顧客との共同開発を継続実施中

電池材料

- リチウムイオン二次電池リサイクルプラント建設を決定（2027年10月完成予定）
- 米欧日の市場が求める原料調達、設備対応、評価が完了
国内唯一のLiPF₆メーカーとして、この需要を確実に取り込み黒字化を目指す
- ライセンスビジネスを継続・拡大し、投下資本回転率を向上させていく
技術開発をさらに前進させ、知的財産を活用した事業拡大を目指す

ポートフォリオ改革

基礎 化学品

- 原料供給機能への特化など事業規模再編を計画も、同機能を維持するためには現状での黒字化が必要と判断
 - ▶ 無機製品の値上げ、省人化・コストダウンの徹底により、安定した黒字化を目指す
- 将来的には、無機製品へのシフトや、精密化学品事業への展開（特殊ガス事業とのシナジー）等の構造改革による収益性向上を図る

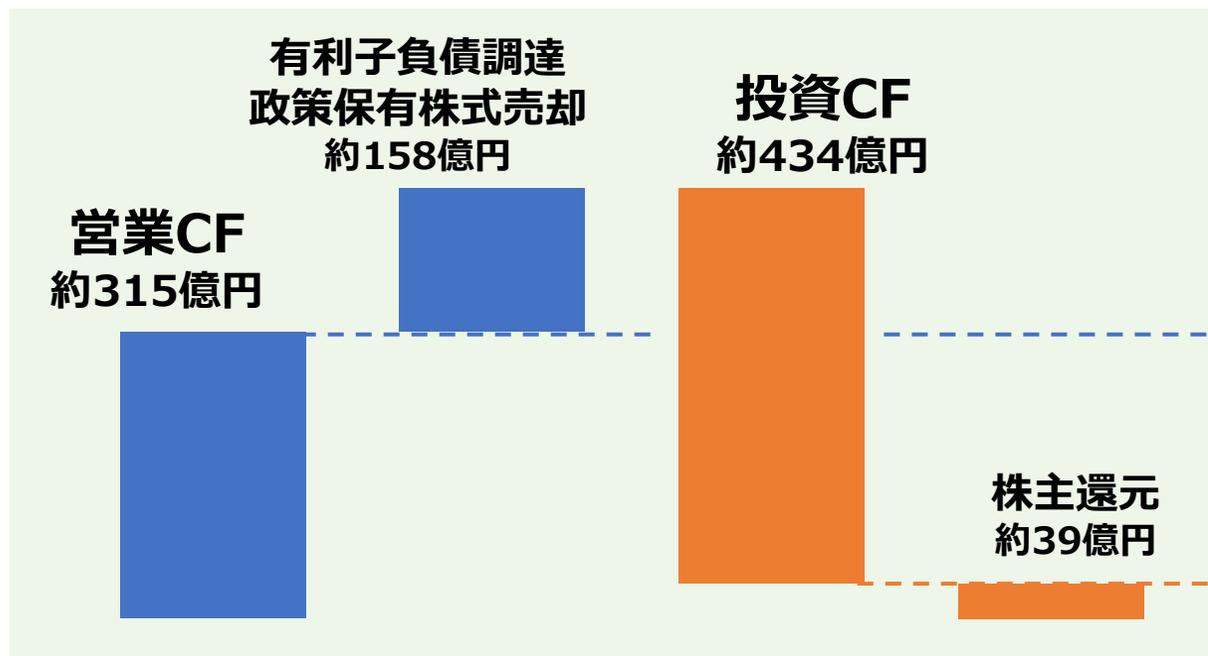
鉄系

- グループ会社へ事業を集約し効率化を図る
 - ▶ 渋川工場内でのキャリアー製品の生産は2024年11月をもって終了
 - ▶ (株)関東電化ファインテックの製造移管に向けた工事は概ね完了
 - ▶ 2025年6月から試運転を開始予定、計画通りに進捗



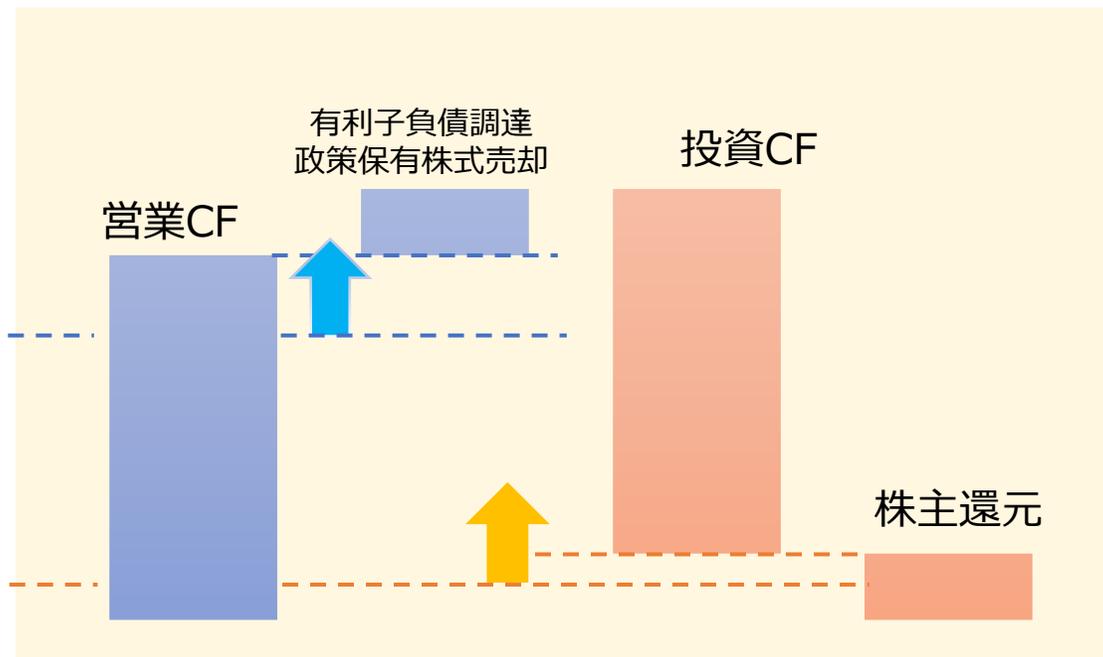
キャッシュアロケーション

【2022～2024年度 実績】



- 2025年3月末の自己資本比率は53.4%であり、概ね適正水準と認識
- 前中計期間から2022-24年度にかけては大型投資が集中し、営業CFを超過する投資が継続

【2025～2026年度 イメージ】



- 投資が一巡する2025年度以降は、営業CFと投資CFのバランスが改善する見込みのため、株主還元の向上に努める

現在の配当方針：連結配当性向30%以上

1. 2025年3月期 決算概要

2. 業績見通し・今後の動向

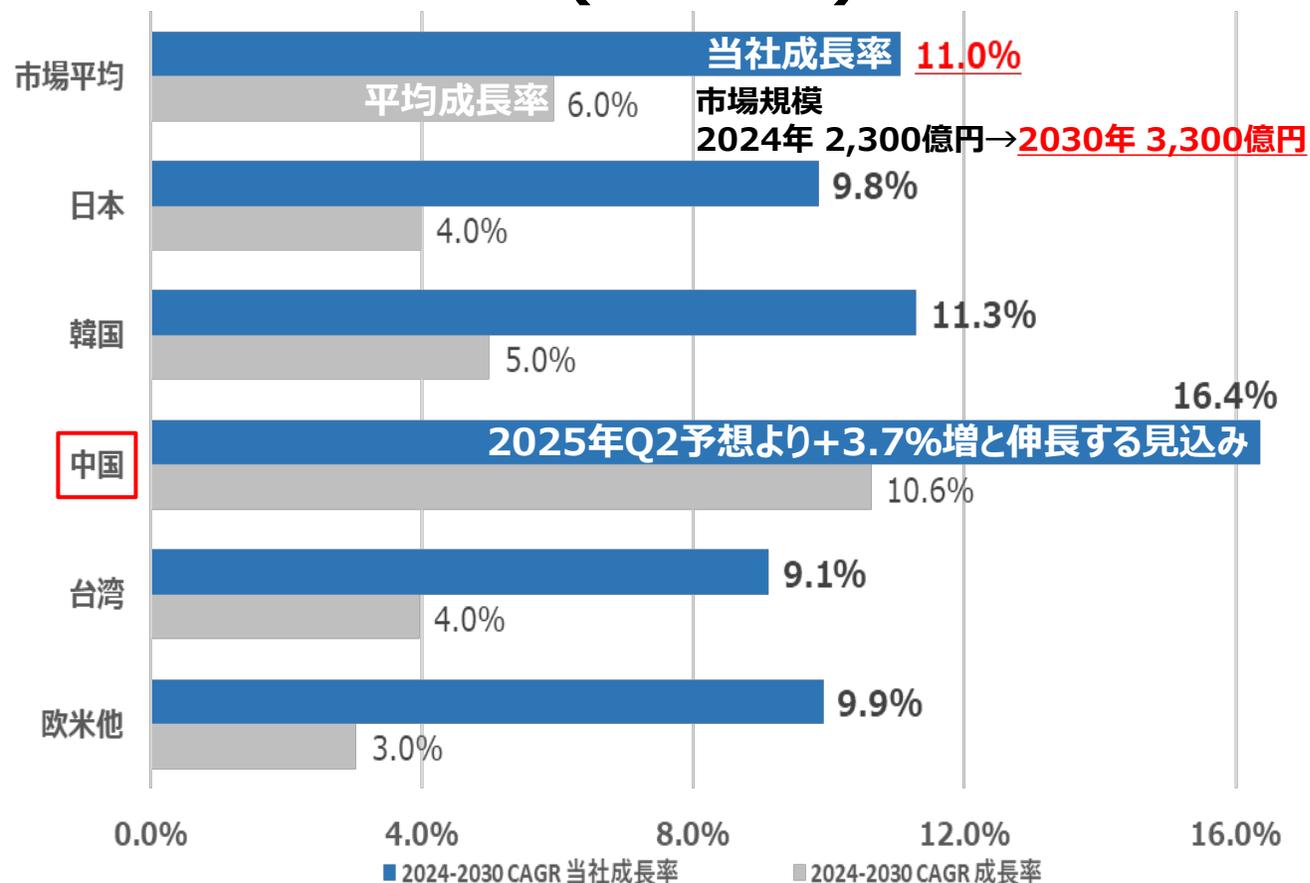
3. 中期経営計画の進捗

4. 補足資料

特殊ガスの今後の見通しと戦略

- 半導体エッチング&クリーニングガスの市場規模は2030年に3,300億円*に成長見込
- 当社CAGR(2024-2030年)は市場平均6.0%*に対し11.0%を想定
- 当社目標シェア(2030年)は25%以上

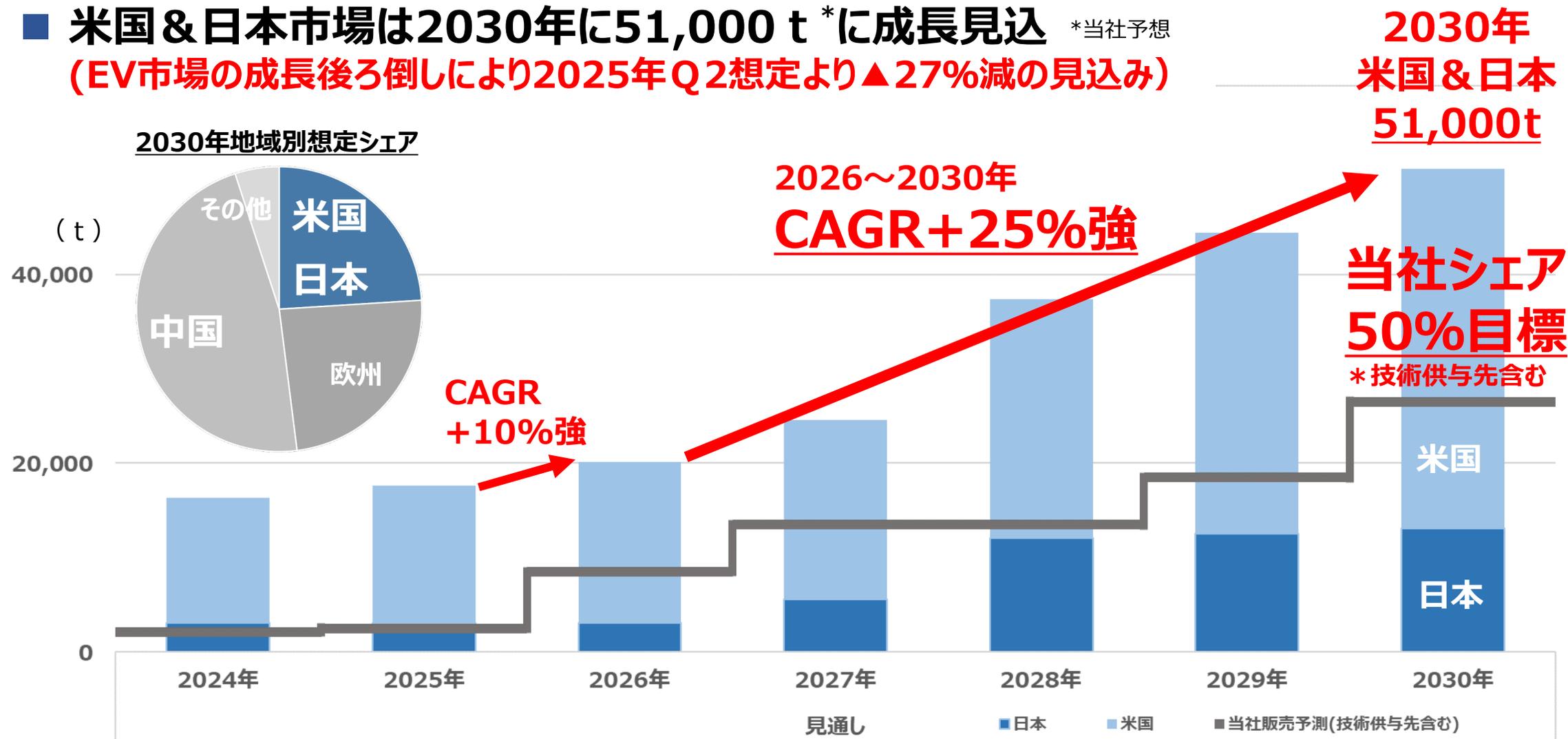
*当社予想

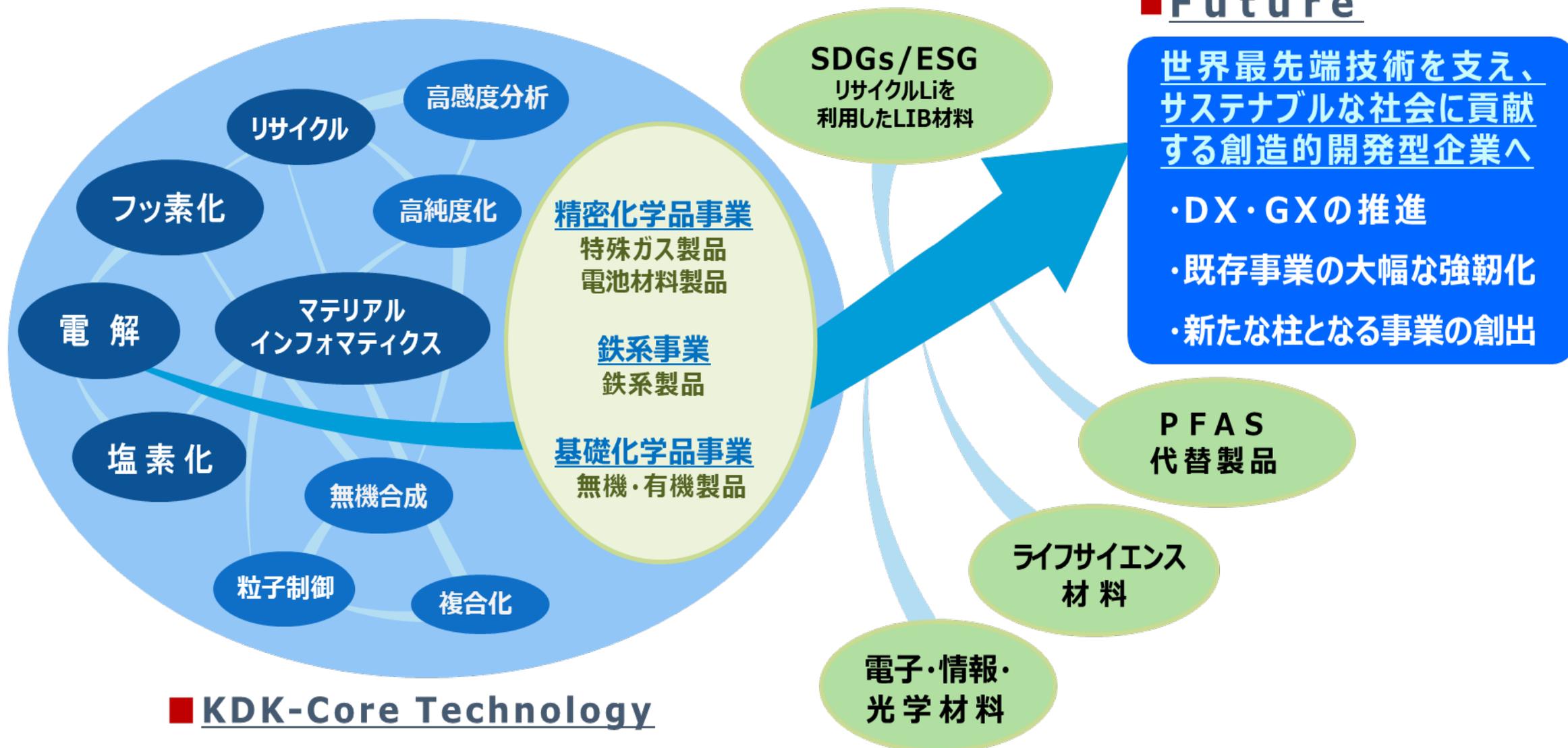


	施策・戦略
日本	渋川・水島工場の生産設備拡大 KSGシリーズの販売拡大
韓国	韓国工場の生産拡張、品種拡大、新製品投入 韓国開発拠点の活性化
中国	中国工場稼働本格開始 韓国工場、渋川・水島工場との連携生産 中国協力企業との連携
欧米他	ライセンスを含めた生産拠点の検討開始 設備メーカー、顧客との開発へ拠点新設

今後の電池材料 (LiPF₆) の見通し

- 当社が狙う市場は米国 & 日本市場
- 米国 & 日本市場は2030年に51,000 t *に成長見込 *当社予想
(EV市場の成長後ろ倒しにより2025年Q2想定より▲27%減の見込み)





名 称		内 容
基礎化学品 事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学品 事業	特殊ガス製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タングステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、フッ素混合ガス、KSG-14、KSG-5等
	電池材料製品	六フッ化リン酸リチウム、ホウフッ化リチウム、ジフルオロリン酸リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。